

会議録(要旨)

1	会議名	第2回 高砂市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成26年 2月 7日(金) 14時00分～15時15分
3	開催場所	高砂市役所 南庁舎 5階 大会議室
4	出席者	<委員> 高砂市子ども・子育て会議 委員14名 <事務局> 教育長、福祉部長、健康文化部長、教育部長、子育て支援室長、子育て支援室主幹
5	傍聴人数	6名
6	次第	1 開会 2 議題 (1) 高砂市子育て支援に関するアンケート調査結果速報 (2) 教育・保育提供区域の設定について(案) 3 その他 4 閉会
7	配布資料	<事前配布> 資料① 高砂市子育て支援に関するアンケート調査結果速報 資料② 教育・保育提供区域の設定について(案) 資料③ 計画書の構成(案) <当日配布> 1 第2回高砂市子ども・子育て会議次第 2 高砂市子ども・子育て会議委員名簿 3 第2回高砂市子ども・子育て会議配席図 4 参考資料 教育・保育提供区域の設定について(案)

	<p>1 開会 (14 : 00)</p>
	<p>2 議題</p>
	<p>(1) 高砂市子育て支援に関するアンケート調査結果速報</p>
事務局	<p>【資料① 高砂市子育て支援に関するアンケート調査結果速報について説明】</p>
委員	<p>前回の会議の説明では、回収率は全体の85%、対象人数は未就学前が2,000人程度、小学生保護者が1,000人程度ということだった。結果とは少し違うが何か対策はあるのか。</p>
事務局	<p>前回の会議では、次世代育成支援行動計画策定時のアンケート回収率からみたおおよその数で説明した。実際に集計後の回収率は、就学前保護者の有効回答率として66.3%、小学校の保護者は80.1%となった。</p>
委員	<p>このアンケートは子育て支援に関することなので非常に参考になると思うが、回収人数が非常に少ないのではないかと思う。はたしてこのアンケートが今後、様々な方向を決めるにあたり参考になるのかどうか不安になる。</p>
事務局	<p>他市では50%を越す程度の回収率である。当市の調査方法は学校・幼稚園・保育所を通じての配布・回収を行ったので、非常に高い回収率であると考えており、この回収率で今後のニーズが把握できないというものではない。</p>
	<p>(2) 教育・保育提供区域の設定について (案)</p>
	<p>(3) 計画書の構成 (案)</p>
事務局	<p>【資料②教育・保育提供区域の設定について (案)、資料③計画書の構成 (案) を説明】</p>
委員長	<p>教育・保育提供区域の考え方について、高砂市の現状を示したうえでの提案だったが、意見、質問等はないか。</p>
事務局	<p>【教育・保育提供区域の設定について (案) の追加説明】</p>
委員	<p>この8地区で幼稚園、保育園は進めていくのか。4月から高砂小学校は人数が少ないということで、小・中一貫で高砂市全体から人を集めることになったかと思うが、そのような考えは幼稚園、保育園にはないのか。</p>
事務局	<p>市内8地区にはそれぞれ公立の幼稚園、保育園が存在しているが、例えば伊保地区には伊保幼稚園、伊保南幼稚園、梅井保育園、米田地区には米田幼稚園、米田西幼稚園、米田保育園と、一つの地区に多くの幼稚園、保育園がある。高砂地区でも、過去には高砂西保育園のほかに高砂保育園があった。平成22年に策定した、「幼稚園・保</p>

	<p>育園の統廃合等の推進方向」では8地区で検討・推進しており、人口の減少や施設の状況等を加味し、統廃合あるいは延長保育などの利用者のニーズに応えられるよう民間移管も進めている。中筋地区、阿弥陀地区、今年4月から高砂・北浜地区では、幼保一体化のこども園として幼稚園、保育園の共有化を図っているのを認定こども園という形で進めていくかを今後検討していくが、8地区で検討・推進していく考え方は変わらないと理解していただきたい。</p>
委員	<p>「幼稚園・保育園の統廃合等の推進方向」には、阿弥陀地区が入っていないように思うが、阿弥陀はすでに統廃合されてこども園になっているからか。</p>
事務局	<p>阿弥陀地区は、公立の幼稚園、保育園が隣接しており施設・運営面において一体化が取り組みやすいため、平成13年度から阿弥陀保育センターと位置づけた。平成21年度からは、園長を1人とし、4歳児・5歳児の合同保育を、平成24年4月からは幼保一体化施設として中筋地区の中筋こども園と同じく幼保一体化施設としてすすめてきた経緯がある。そのため、方針がまとまっているということで除かれている。</p>
	<p>3 その他</p>
委員長	<p>意見、質問等はないか。事務局は補足等ないか。</p>
事務局	<p>最初に統計調査のサンプル数について2人の委員から意見があったが、先日、実施した高砂市民満足度調査では、全市を対象に約5%程度のサンプルがあれば傾向がみえてくるとされた。全国的な調査でも1億人に対して数千人に実施することもある。今回は、傾向でなくニーズ調査なので、回収率は高めなければならないが、厚生労働省は回収率が50%を超えないものについては催促を行う、あるいは記入しやすいアンケートに改めるという方針を示している。就学前は60%を超え、小学生は80%を超えているので、この調査結果をもって計画を策定することについて問題はない。</p>
委員長	<p>私は司会している立場なので発言は控えているが、事務局の同様の見解でこの回収率に問題はないと考える。</p>
委員	<p>計画書の構成（案）についてもう少し詳しく説明をいただきたい。</p>
事務局	<p>計画書の構成（案）については、まだ骨子案も出来ていない。今回はニーズ調査の単純集計結果で、4月に開催予定の会議でニーズ量の見込みを提示する。この単純集計に年齢や就労状況、地域をクロスして国の算出基準に合わせ計算し報告書を作成する。それに基づき計画の骨子を作成するため、現在、計画書は3部構成といったおおまかな内容しか説明できない。</p>

委員	4月の会議に提示された骨子案をみてその内容について質問をする。
委員長	実態の合わせた構成案にしたいという意向だと思う。
事務局	本日、教育・保育提供区域を設定したい。ニーズ量を出していくために区域の設定が必要である。事務局から8地区で細かくニーズ量を出していくが、柔軟に対応していくために1地区、あるいは2地区と大きな括りの区域設定を提案した。結論が出ない場合は、委員長と事務局に一任するという事で決定してよろしいか。
委員長	事務局からの教育・保育の提供区域について、大きな区域で設定するという提案だがよろしいか。
	(承認)
委員	参考資料の計画のイメージには学童保育所（放課後児童クラブ）を例に量の見込み、確保方策が記載されているように、確保の内容として年度内に放課後児童クラブのガイドラインがでてくると思う。現在は児童1人あたり1.65㎡が望ましいとなっているが、高砂市の学童保育所の現状は、児童1人あたり約1.1㎡というような状態で非常に利用率が高い状況である。このように不足がある場合は整備の検討に関わってくるのか聞きたい。
事務局	不足がある場合については今後、協議する必要がある。次回の会議で量の見込みなどの報告ができるので、量の見込みや提供の内容について検討していく。学童保育所を含め地域子ども・子育て支援事業については各事業ごとに区域を決める。学童保育所については、現在小学校区ごとに存在しているので小学校区10区で検討を進めていく予定だが、今後、ニーズ量を踏まえ協議していく。
委員	阿弥陀で子どもの預かりをしているが、現在、待機児童や突然母親が病気になった子どもの預かりや震災で二重生活をしている方の子どもを1～2か月間預かったりしている。これからは、このような預かりを保育園等で解消されていくのか。
事務局	子ども・子育て支援新制度では、保育の必要性の認定を受けた後利用調整することになっている。一時預かりの充実なども必要であると考えている。第1号認定となる幼稚園の公立幼稚園では預かり保育を実施していないが、認定子ども園では実施していることや認可保育所以外で保育する場合などについて、今後整理し充実させていくなどを今後協議していく。

事務局	<p>【次回会議について説明】</p> <p>第3回高砂市子ども・子育て会議</p> <p>日時・場所 4月中に開催を予定。日程調整後連絡する。</p> <p>内 容 ニーズ調査の結果から算出した量の見込みについての報告ほか</p> <p>4 閉会 (15:15)</p>
-----	---